

# “いのち”のプロジェクトとは?

“いのち”のプロジェクトは、平成28年の秋「子どもたちを守るために私たち大人ができること」を考えるため、保護者(日野市立小中学校PTA協議会)・学校・日野市教育委員会からなるプロジェクトチームとして平成29年5月に発足しました。

## これまでの活動

平成30年2月

第1回 “いのち”のわ～みんなで話そう～  
「中学生と保護者の対話」



平成31年2月

第2回 “いのち”のわ～みんなで話そう～  
「中学生と保護者と小学生の対話」



令和2年2月

第3回 “いのち”のわ～みんなで話そう～  
「中学生と小学生との対話」



“いのち”のわ は、生きる喜び、つらさを救う発信、子どもたちから学び、学校・地域・町中に広がる仕掛けを作りたいと、子どもたちの主体性を大切に“いのち”の対話の機会として開催してきました。

毎回、“いのち”という一つの言葉から、いじめ、差別、防災、災害対応、自殺等さまざまな視点から熱気あふれる対話が行われてきました。

“いのち”のわ は、子どもも大人も、ちょっと立ち止まって“いのち”について考える機会。コロナ禍だからこそ、身近な人と“いのち”について語り合ってみませんか。



## 令和2年2月の“いのち”のわ 参加者感想

違いを認め合うってどういうこと～について、他の人の体験談や意見をたくさん聞いたりすることで自分の“いのち”に関する考え方が深まりました  
(中2)

小学生に助けられたことも多かったなと思います  
(中2)

クラスにはいろんな人がいるので、得意な人が苦手な人を助けることで、支え合っていくことが大切だなと感じました  
(小6)

いのちについてちがいをみとめあうってどういう事?については一回も考えたことがなかったので深く考えられるいいきっかけだと思いました  
(小6)

今年2回目の参加で自分の班を会長としてまとめることができました。  
(中2)

さいしょは、ぜんぜんみんなと話しにくかったけど、みんながしゃべってくれていっしょに考えたりできたので楽しかったです  
(小5)

認め合う心やいのちと向き合う心を見つけることができ、とても有意義な会になったと思いました  
(小6)

話し合っていて新しい考えが浮かんできました  
(小6)

いつも普通に生きていることがどれだけ大切なのかを学ぶことができました  
(小6)



違いを認めるには広い心をもつことが大切だと知ることができました  
(小6)

中学生や他の学校の人たちと話し合いをして自分とはちがう意見を聞くことができてよかった  
(小6)

これからも、お互いのことを認め合うことを忘れずに生活していきたいです  
(小6)

今まで自分一人では考え切れなかったことを、他の人とたくさん話せて、よい経験になったと思います  
(小5)

他校の人との交流はなかなかないので、とても良い経験になりました  
(小6)

中学生のお兄さんやお姉さんがいて、言ったことをまとめてくれたり、いっしょに考えたりしてくれました  
(小5)

- 当日、初めて逢う他校の子供達やお兄さん、お姉さん達の中、お互いに協調し合い難しい課題に取り組む子供達に、感銘を受けました。
- 小中学生が、こんなにも色々な切り口で課題に対して向き合い、まとめる姿を見て自分の子供の頃と比較して、考えさせられました。
- 今回初めて参加させてもらいましたが、素晴らしいプロジェクトで、多数の子供達の参加、見守る大人達の多さに驚いた。
- 大人は見守り(傍観者)とはいえ、テーブルに着く大人も多く、この状況で議論しろと言われても、緊張と警戒心の中、時間との戦いには苦労しているみたいでした。
- 話しの流れを断ち切ってしまうように感じ、大人がどこまで介入(助言)してよいかの線引きが難しかった。

(保護者)

- 小学生と中学生が同じテーマで交流できる、貴重な時間だと感じました。何よりも尊い『命』について、深く考えることができた、他校の発表を聞いたことも、よい経験になりました。
- 児童・生徒が命について多様な角度で話し合いを行い深い学びが実現していたと感じた。
- 普段は、なにげない雑談しかしない友人の良いところを見つけれられた生徒も多かったのではないかと感じました。「自分で考え解決する力」が育まれた機会だったのでないでしょうか。

(教員)

- 自分の意見を否定されたら、なぜ否定するのかを考えて、受け入れるというより理解して、選択の一つにすると、自分の視野が広がる。という意見に大人の私が教えられました。
- 発表者の言葉遣いに感動しました。これだけの言葉を使いこなせる発表者の感性と表現力にただただ感動です。
- 「対話が価値を生む」を実感しました。

(教育委員)